

第5回 海岸保全施設における水門・陸閘等の維持管理マニュアル策定検討委員会 議事概要

- ・日 時：平成30年3月8日（木） 10:00～12:00
- ・場 所：中央合同庁舎第3号館 4階 特別会議室
- ・出席者：横田委員長、岩波委員、佐藤委員、水谷委員 他

1. 主な議事

○事務局より、第4回検討委員会における委員からの主な意見とその対応について説明した後、マニュアル（改訂案）について意見交換を行った。

2. 主な意見

- 水門・陸閘等の設計上、開閉操作を何回程度に想定しているかを確認すること。
- 対策工法等の検討の際、ライフサイクルコストだけではなく、費用対効果の観点も考慮するよう、表現を変更すべき。
- 長寿命化計画に水門・陸閘等の統廃合を位置づけるとよい。
- 水門・陸閘等の設備について、点検時に準拠すべき法律を記載するのがよい。
- ライフサイクル算定ツールについて、対象施設の範囲や算定方法の概要について記載するのがよい。
- 一次・二次点検において砂浜を点検する際の視点として、水門・陸閘等の止水・排水機能への影響を追加すべき。
- 堤防・護岸等と水門・陸閘等の土木構造物部分は、同じ土木構造物であるので、健全度評価の基準をある程度整合を図る必要がある。
- 水門・陸閘等の土木構造物部分の健全度評価と、水門・陸閘等の総合的健全度評価の指標が同じ「A、B、C、D」であるため、表現を工夫すること。